

8月の職員オススメ本



「紅蓮館の殺人」 阿津川 辰海／著 講談社

作家財田雄山のファンである田所と葛城は、財田が住む館へ行くため高校の合宿を抜け出した。館がある山を登る途中、落雷で山火事が起き、下山できなくなってしまう。なんとか財田の館に避難するが、救助を待つ間で館に住む少女つばさが死体となって発見される。

館全焼まで35時間。その間に脱出できるのか、また事件の真相は—

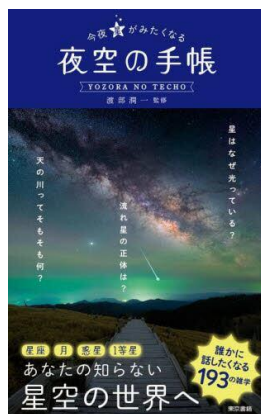
「館四重奏シリーズ」第一作目で、山火事が迫るクロード・サークルのミステリー小説であると共に、探偵とはどうあるべきかに迫る一冊です。



「へびつかい座の見えない夜」 砂村 かいり／著 東京創元社

二十五歳になる瑞季は、地方都市にある不動産会社で事務の仕事をしている。十五名しか在籍していない職場で、机のまわりはそれぞれ個性が出ている。瑞季の机の上はさっぱりしているが、引き出しにペットボトルの健康茶に付いているおまけを集め、保管している。ある日、つい引き出しを大きく引いて見入っていたところを先輩の今泉さんに見られてしまう。彼女から「集めてるんなら、手伝ってあげる」と言われ……。

表題作をはじめ、自分にとって大切なコレクションをしている人々の5つの短編小説です。



「夜空の手帳」 渡部 潤一／監修 東京書籍

星や星座、月、惑星などにまつわる話がわかりやすく解説されている一冊です。季節や時間ごと、その日の天気や空気で、見える空の様子は少しずつ違って見えるのもワクワク楽しいものです。夏の夜空を眺めてみませんか？